

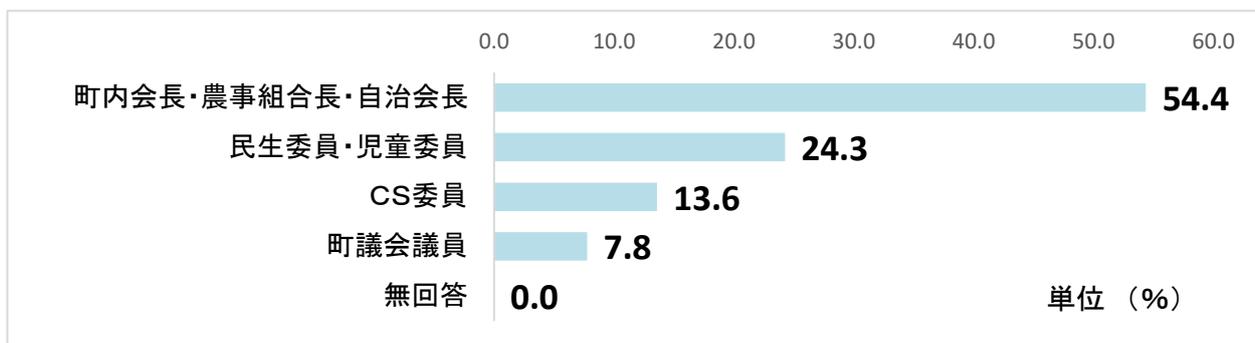
障がい福祉についての意識調査（関係者）

対象者（調査票送付者）	192
回答者（12月15日～1月18日受付分）	103
回答率	53.6%

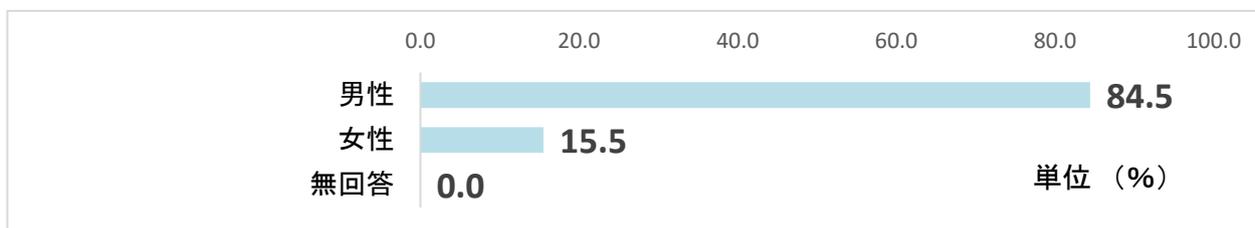
192人の方へ調査票を送付し、103名の方より回答をいただきました。
回答率は53.6%となっています。

※コミュニティ・スクール委員・地域と学校をつなぎ、みんなで一緒に子どもを育てる学校をコミュニティ・スクール(CS)といいますが、コミュニティ・スクールを支えるのがコミュニティ・スクール委員になります。

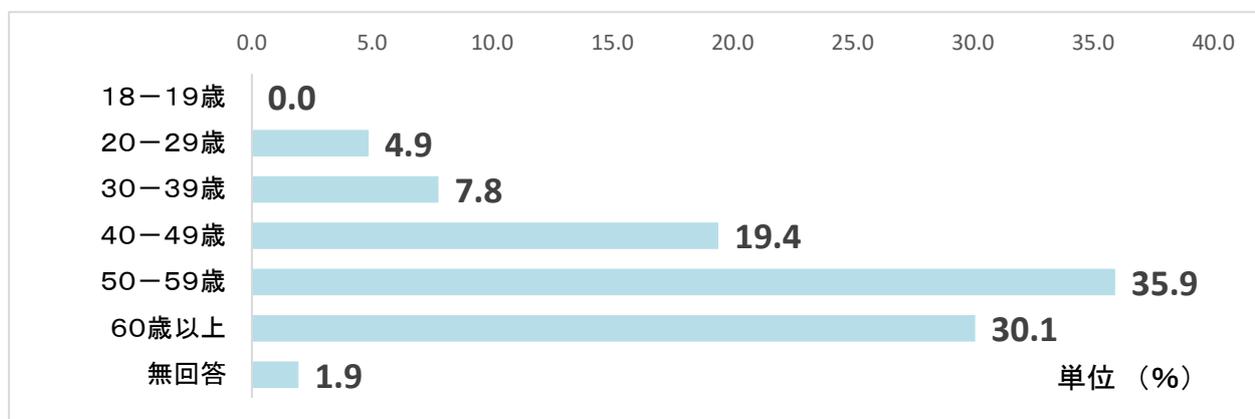
Q 1 あなたの役職を教えてください。 (○はひとつだけ)	件数	割合 (%)
1 町内会長・農事組合長・自治会長	56	54.4
2 民生委員・児童委員	25	24.3
3 CS委員	14	13.6
4 町議会議員	8	7.8
無回答	0	0.0
合計	103	100.0



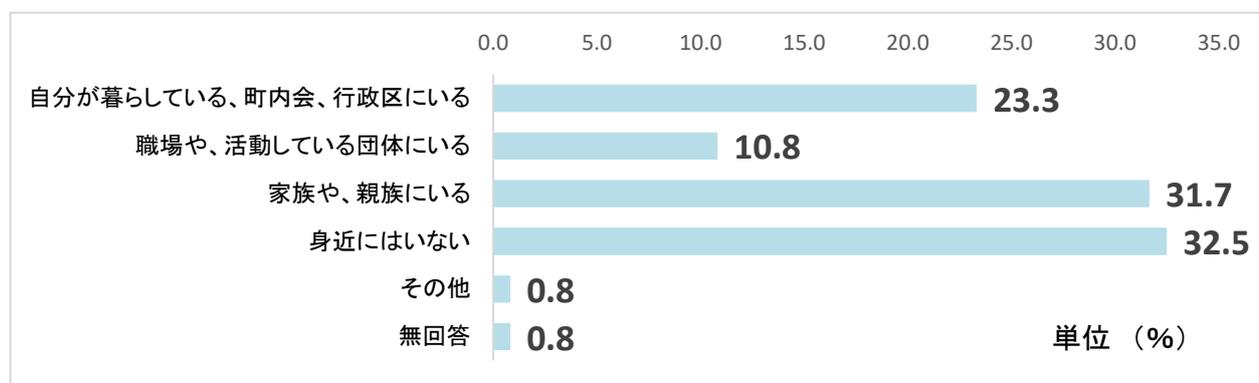
Q 2 あなたの性別はどちらですか。 (○はひとつだけ)	件数	割合 (%)
1 男性	87	84.5
2 女性	16	15.5
無回答	0	0.0
合計	103	100.0



Q 3 年齢は何歳ですか。(令和5年10月1日現在) (○はひとつだけ)		件数	割合 (%)
1	18-19歳	0	0.0
2	20-29歳	5	4.9
3	30-39歳	8	7.8
4	40-49歳	20	19.4
5	50-59歳	37	35.9
6	60歳以上	31	30.1
	無回答	2	1.9
合計		103	100.0



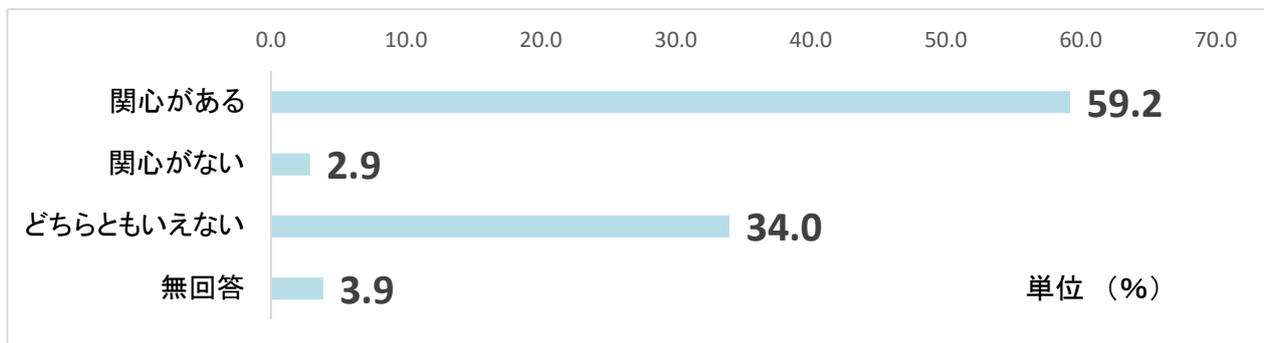
Q 4 身近に障がいのある方はいますか (○はあてはまるものすべて)		件数	割合 (%)
1	自分が暮らしている、町内会、行政区にいる	28	23.3
2	職場や、活動している団体にいる	13	10.8
3	家族や、親族にいる	38	31.7
4	身近にはいない	39	32.5
5	その他	1	0.8
	無回答	1	0.8
合計		120	100.0



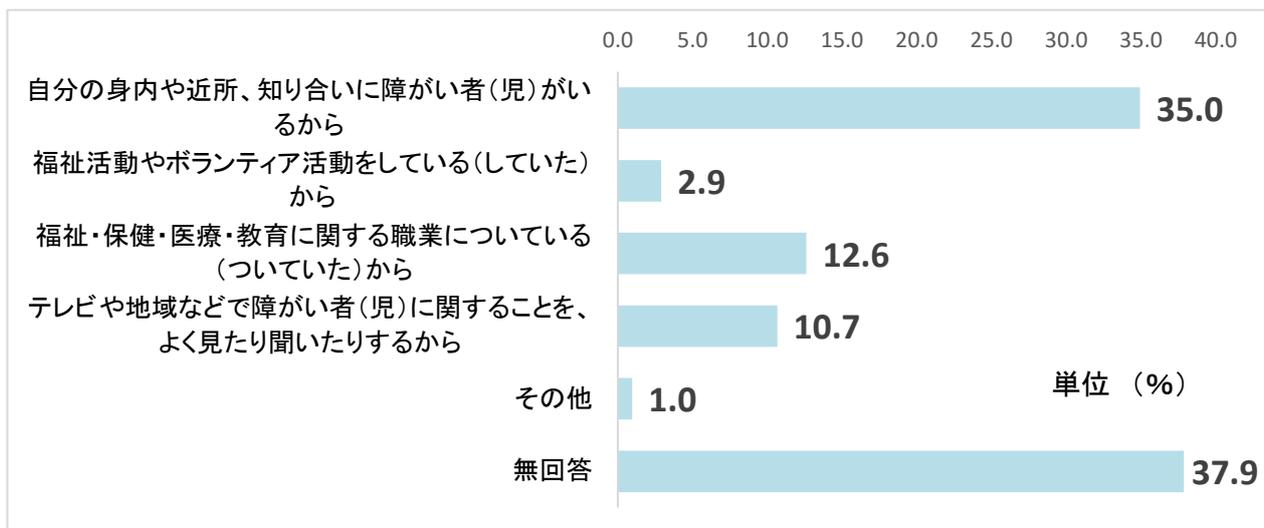
問4 その他

60代 男性『どの程度が障がいなのか、判断が難しいです』

Q 5 あなたは、障がい福祉について関心をお持ちですか。 (○はひとつだけ)	件数	割合 (%)
1 関心がある	61	59.2
2 関心がない	3	2.9
3 どちらともいえない	35	34.0
無回答	4	3.9
合計	103	100.0



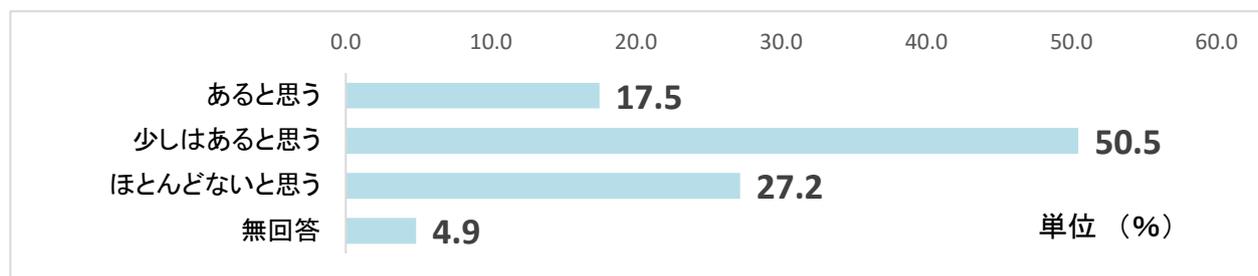
Q 6 どのような理由から関心をお持ちですか。 (○はひとつだけ)	件数	割合 (%)
1 自分の身内や近所、知り合いに障がい者(児)がいるから	36	35.0
2 福祉活動やボランティア活動をしている(していた)から	3	2.9
3 福祉・保健・医療・教育に関する職業についている(ついていた)から	13	12.6
4 テレビや地域などで障がい者(児)に関することを、よく見たり聞いたりするから	11	10.7
5 その他	1	1.0
無回答	39	37.9
合計	103	100.0



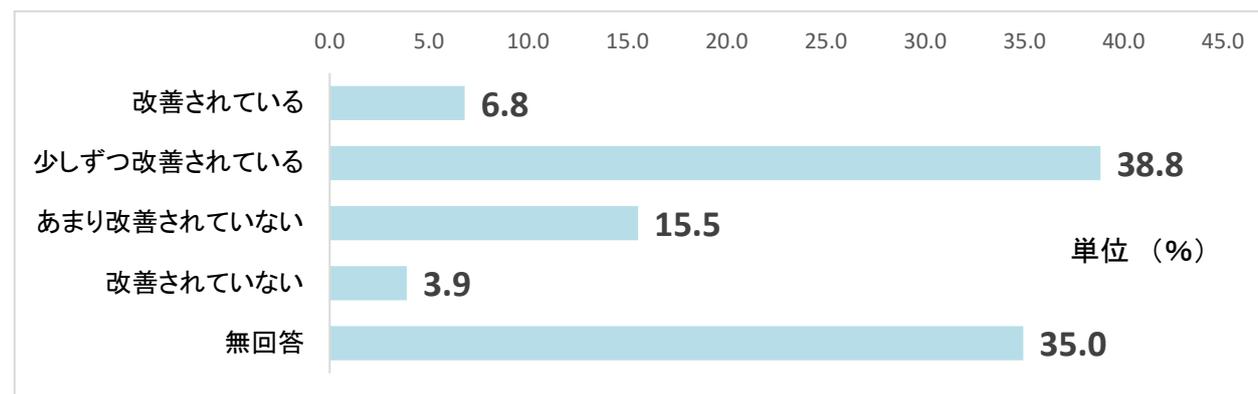
問6 その他

60代 男性『支援活動をしている友人がいるから』

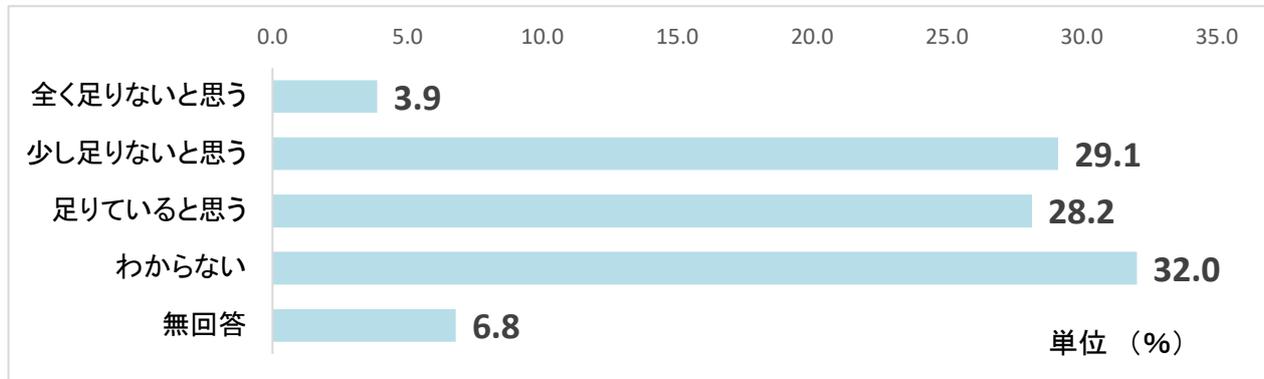
Q	7 あなたは、清水町に障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか（○はひとつだけ）	件数	割合（%）
1	あると思う	18	17.5
2	少しはあると思う	52	50.5
3	ほとんどないと思う	28	27.2
	無回答	5	4.9
	合計	103	100.0



Q	8 以前と比べて、清水町の障がいのある方に対する差別や偏見は改善されていると思いますか。（○はひとつだけ）	件数	割合（%）
1	改善されている	7	6.8
2	少しずつ改善されている	40	38.8
3	あまり改善されていない	16	15.5
4	改善されていない	4	3.9
	無回答	36	35.0
	合計	103	100.0



Q	9 清水町では、障がいのある方への対応や理解が足りない と思いますか。(〇はひとつだけ)	件数	割合 (%)
1	全く足りないと思う	4	3.9
2	少し足りないと思う	30	29.1
3	足りていると思う	29	28.2
4	わからない	33	32.0
	無回答	7	6.8
	合計	103	100.0



Q 10 それは、どのようなことですか。思うことを教えてください。（自由回答）

70代 男性『成人以前と、成人以後の行政対応の落差が大きい。 障害の実態の把握が難しく、十分な対応が困難』

50代 男性『例えば公共施設等でバリアフリー化が不足している。 歩道の除雪等。 行政が、住みやすい町として上記のように「暮らしやすい町」を作っていない』

50代 男性『障がい者の働く場が、十分確保されているのか。障がい者用駐車場に、どう見ても若い元気な人が車を停めている』

50代 男性『道路、歩道のバリアフリー』

70代 男性『（「清水町では、障がいのある人への対応や理解が足りている」とする意見）町としての役割は、果たしている様に思います』

70代 男性『対応や態度が十分ではないと思う（自分も含めて）』

50代 男性『公共施設はすぐに改修できないのはわかりますが、トイレや施設内のドア、空調や音響など、少しずつでも変えていってほしい』

50代 女性『バリアフリーの整備が進んでいない（学校）』

70代 男性『仕事や収入。建築物』

60代 男性『町民に伝わる施策が見えない。計画策定に重きがあり、実績、課題、改善に関する情報が低い』

70代 男性『近くに対象者がいないので、わからない』

60代 男性『予算の配分が、既成事実の根拠のみに持ちすぎ、身近に必要なものに配慮されていない。深谷市との交流の予算を充ててください』

60代 男性『働ける場所が少ない』

50代 男性『自営業のため、町内に差別や偏見があるかは正直ピンとこない。農作業で障害者の人をお願いすることがあるが、対応や接する人々の自分への問いかけの方がわかりやすいですね』

50代 男性『障がい児の特性理解や、それに合わせた教育内容があるのか、「指導者によって差がある」ように感じる。町内会活動の参加を断ったり、誘うのを控えたりしている』

40代 男性『御影に障害者施設があるが、町内で買い物をしていて出会う機会もあるので、子どもへの説明等、家庭でももちろん、その歴史等、大人も子どもも知る機会を広げられたら、理解を深められて良いかなと思います。

保育所や学校との交流は、コロナ感染症等のこともありますが、できる範囲で続けていけると良いと思います』

60代 男性『町全体のバリアフリー化を進めてほしい。特に冬場は大変だと思います』

70代 男性『対応が遅い』

30代 男性『町中の歩道が狭くて、段差がとても多く感じる』

70代 男性『「障がい」については何となく知っている程度で、まずは「障がい」とはどのようなことなのかを具体的に知ることから始めなければならないと思っています。

多分、自分のような人が多いかと思いかと思いますので、問9では「少し足りない」と回答しました』

70代 男性『仕事や収入。周囲の視線。建築物』

60代 男性『町の企業で、障がいのある人が働いているのが少ないと感じる』

30代 男性『バリアフリーな建物が、まだまだ足りないと思う』

60代 男性『町内のいろいろな施設での、対応や態度などで感じる』

70代 男性『仕事の機会と、周囲の視線で萎縮する』

60代 男性『普段生活をしていて、障がいのある人をあまり見かけません。ということは、私達「健常と同じようには、生活しにくいということなのでは」と思います。

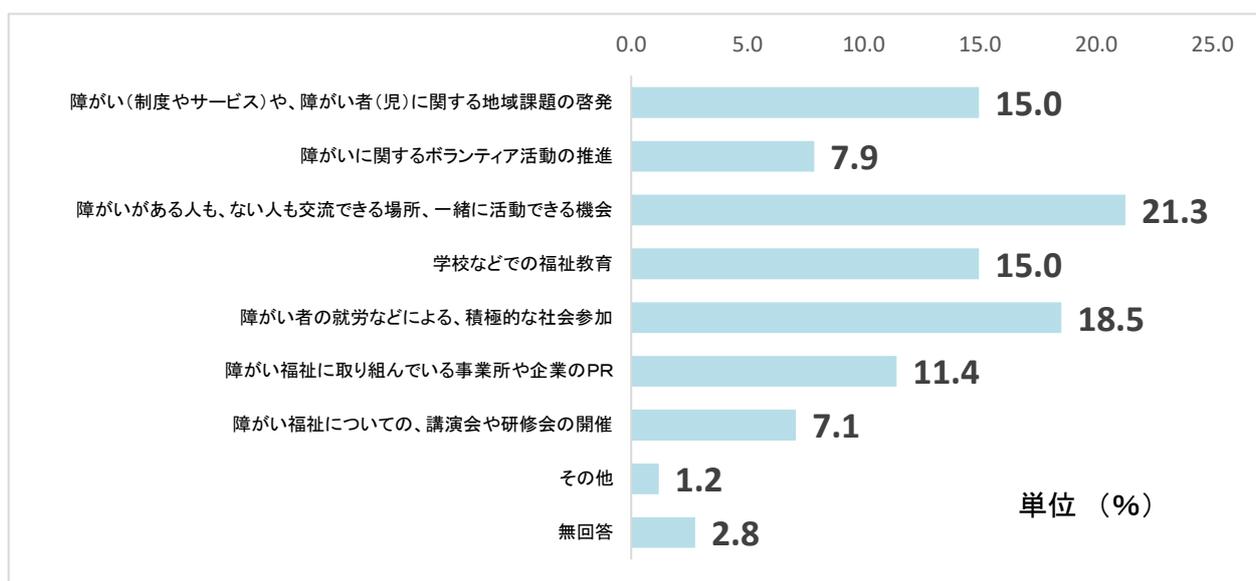
「公共の施設だけではなく、町全体（商店街や道路なども）が、障がいのある人が積極的に出てきづらい」ということかと思います』

70代 男性『福祉計画の内容が、どの段階のものかわからない。（介護・訓練・就業移行・療養介護など、私が身近に感じることはない為）

文化センター内のカリヨンがオープンしている時（コロナ前）は回数券を購入して、利用している程度です。文化センター内のトイレなど、計画に沿って順次進んでいると思いますが、道路などは予算などの関係があると思いますので、力不足は否めない』

60代 男性『就労を含めた社会参加、交流の場』

Q	11 障がいのある方への町民の理解を深めるためには、何が 必要だと思いますか。(〇は3つまで)	件数	割合 (%)
1	障がい(制度やサービス)や、障がい者(児)に関する地域課題の啓発	38	15.0
2	障がいに関するボランティア活動の推進	20	7.9
3	障がいがある人も、ない人も交流できる場所、一緒に活動できる機会	54	21.3
4	学校などでの福祉教育	38	15.0
5	障がい者の就労などによる、積極的な社会参加	47	18.5
6	障がい福祉に取り組んでいる事業所や企業のPR	29	11.4
7	障がい福祉についての、講演会や研修会の開催	18	7.1
8	その他	3	1.2
	無回答	7	2.8
	合計	254	100.0



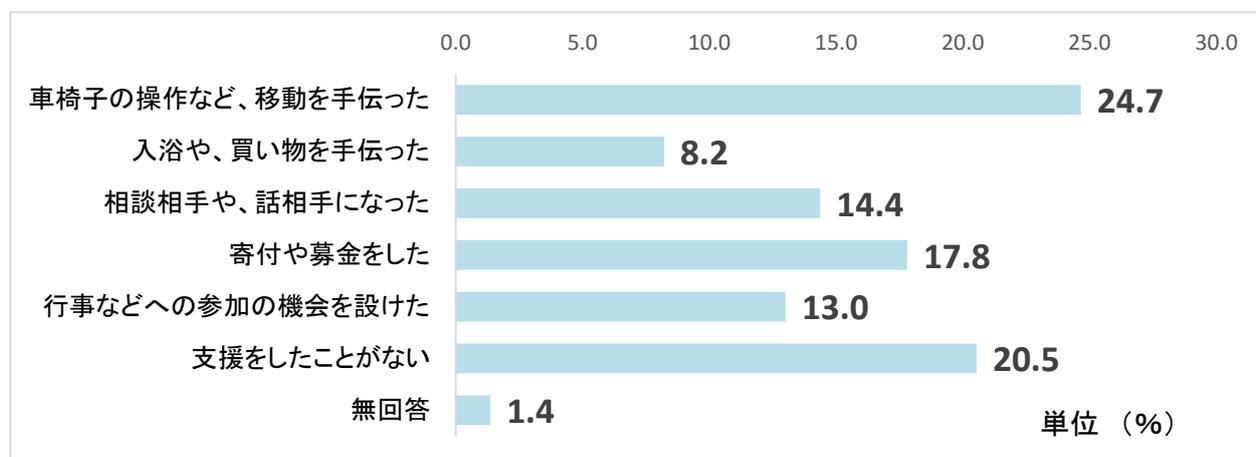
問11 その他

60代 男性『わからない』

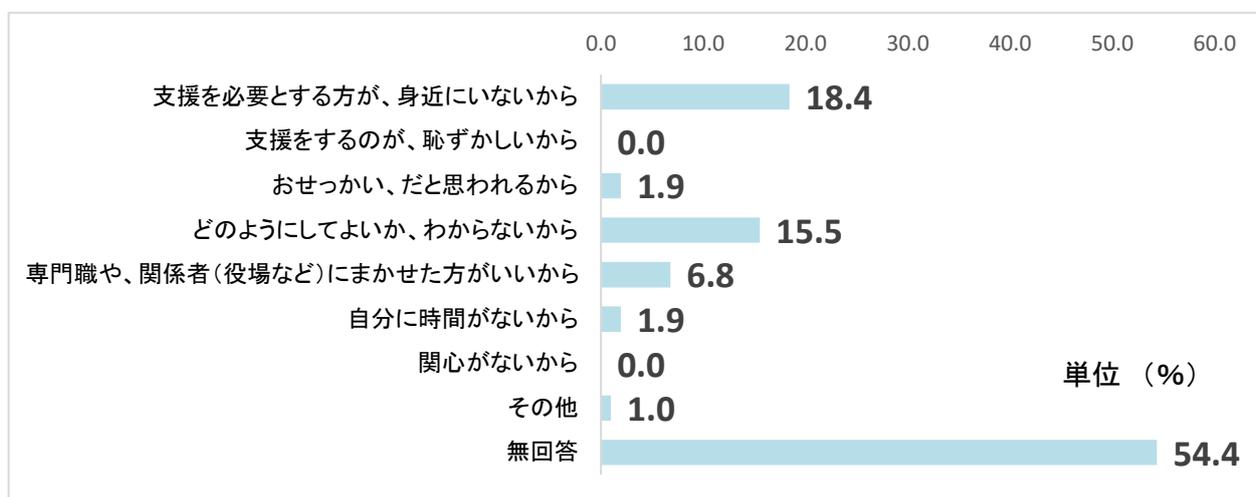
50代 男性『障がい者にも色々あり、身体的、知的などにより、取り組み方も変わると思います』

60代 男性『障害者本人又は、家族、支援者の方々の要望事項を広報等に掲載してはどうでしょう』

Q	12 あなたは、障がいのある方へ、支援を行なったことがありますか。(〇はいくつでも)	件数	割合 (%)
1	車椅子の操作など、移動を手伝った	36	24.7
2	入浴や、買い物を手伝った	12	8.2
3	相談相手や、話相手になった	21	14.4
4	寄付や募金をした	26	17.8
5	行事などへの参加の機会を設けた	19	13.0
6	支援をしたことがない	30	20.5
	無回答	2	1.4
	合計	146	100.0



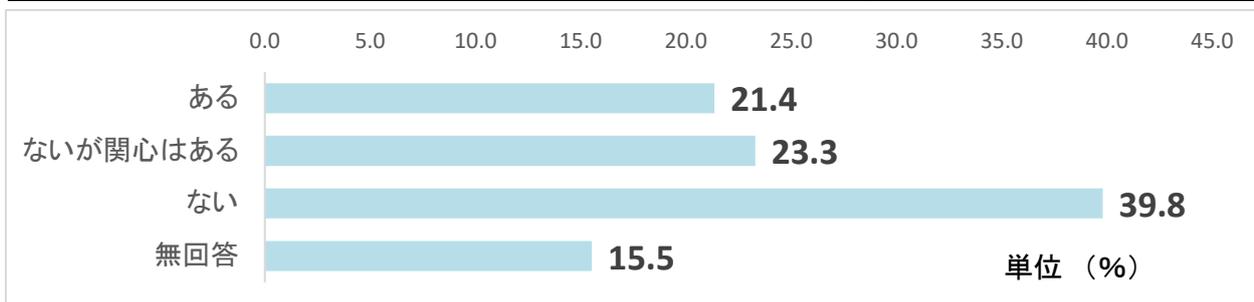
Q	13 支援をしたことがない理由は、どのようなことですか。 (○は3つまで)	件数	割合 (%)
1	支援を必要とする方が、身近にいないから	19	18.4
2	支援をするのが、恥ずかしいから	0	0.0
3	おせっかい、だと思われるから	2	1.9
4	どのようにしてよいか、わからないから	16	15.5
5	専門職や、関係者(役場など)にまかせた方がいいから	7	6.8
6	自分に時間がないから	2	1.9
7	関心がないから	0	0.0
8	その他	1	1.0
	無回答	56	54.4
	合計	103	100.0



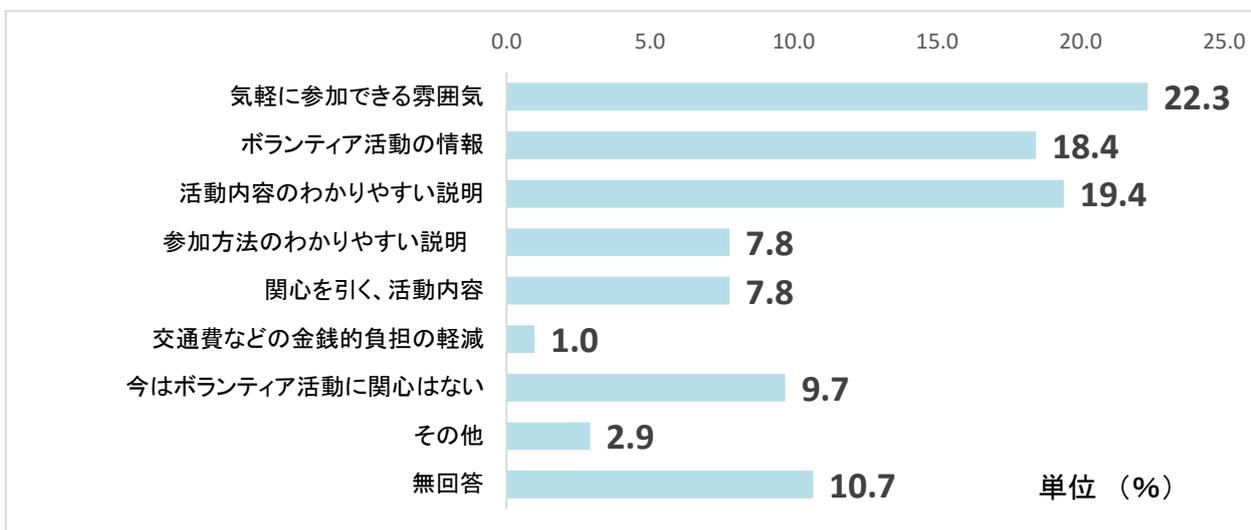
問13 その他

70代 男性『障害を持った人と遭遇した時、注視はするが、その方が困っているかどうかを確認している。自分で出来ると判断した時が、ほとんどであるため支援をしない』

Q	14 あなたは、障がいのある方を対象とするボランティア活動をしたことがありますか。(○はひとつだけ)	件数	割合 (%)
1	ある	22	21.4
2	ないが関心はある	24	23.3
3	ない	41	39.8
	無回答	16	15.5
	合計	103	100.0



Q	15 ボランティア活動に参加するとしたら、何が必要ですか。 (○はひとつだけ)	件数	割合 (%)
1	気軽に参加できる雰囲気	23	22.3
2	ボランティア活動の情報	19	18.4
3	活動内容のわかりやすい説明	20	19.4
4	参加方法のわかりやすい説明	8	7.8
5	関心を引く、活動内容	8	7.8
6	交通費などの金銭的負担の軽減	1	1.0
7	今はボランティア活動に関心はない	10	9.7
8	その他	3	2.9
	無回答	11	10.7
	合計	103	100.0

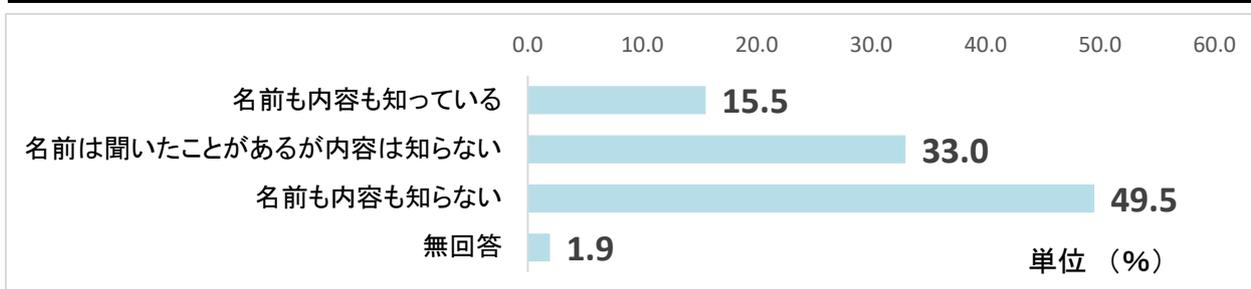


問15 その他

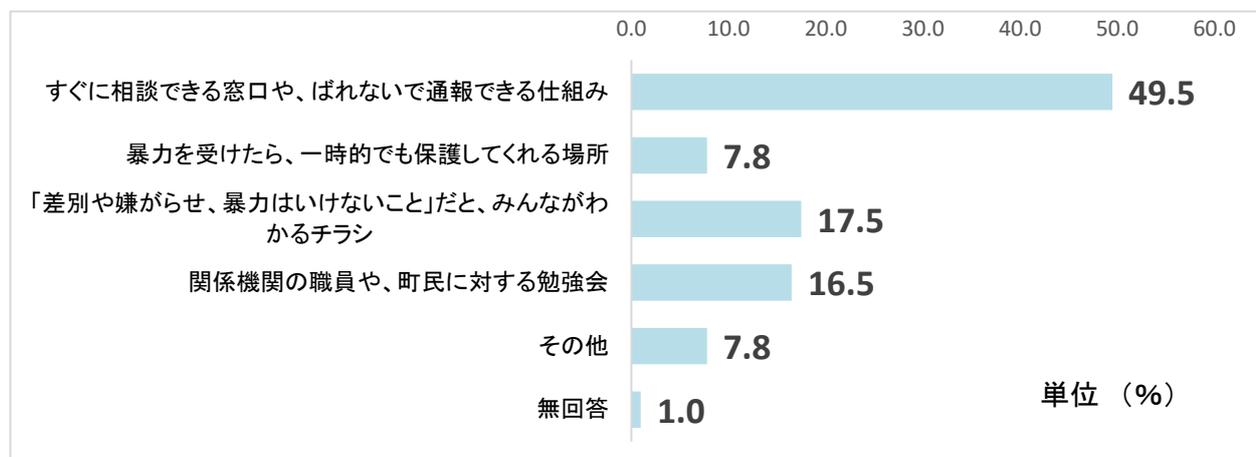
60代 男性『時間』、 70代 男性『きっかけづくり』

60代 女性『参加者ができる作業が見えていないので、参加のハードルが高い』

Q	16 平成28年4月1日から施行されている「障害者差別 解消法」についてご存じですか。(○はひとつだけ)	件数	割合 (%)
1	名前も内容も知っている	16	15.5
2	名前は聞いたことがあるが内容は知らない	34	33.0
3	名前も内容も知らない	51	49.5
	無回答	2	1.9
	合計	103	100.0



17 障がいがあることによる差別や嫌がらせ、暴力などをなくすため Q に、どのようなことがもっとも必要だと思いますか。 (○はひとつだけ)		件数	割合 (%)
1	すぐに相談できる窓口や、ばれないで通報できる仕組み	51	49.5
2	暴力を受けたら、一時的でも保護してくれる場所	8	7.8
3	「差別や嫌がらせ、暴力はいけないこと」だと、みんながわかるチラシ	18	17.5
4	関係機関の職員や、町民に対する勉強会	17	16.5
5	その他	8	7.8
	無回答	1	1.0
	合計	103	100.0



問17 その他

70代 男性『家庭の教育』

50代 男性『相手に対する尊厳』、

60代 男性『人としての尊厳があり、人権の確立と憲法の主旨への理解を深めることが重要。障がい者としてではなく、人として見る大切さ』、

50代 男性『わからない』

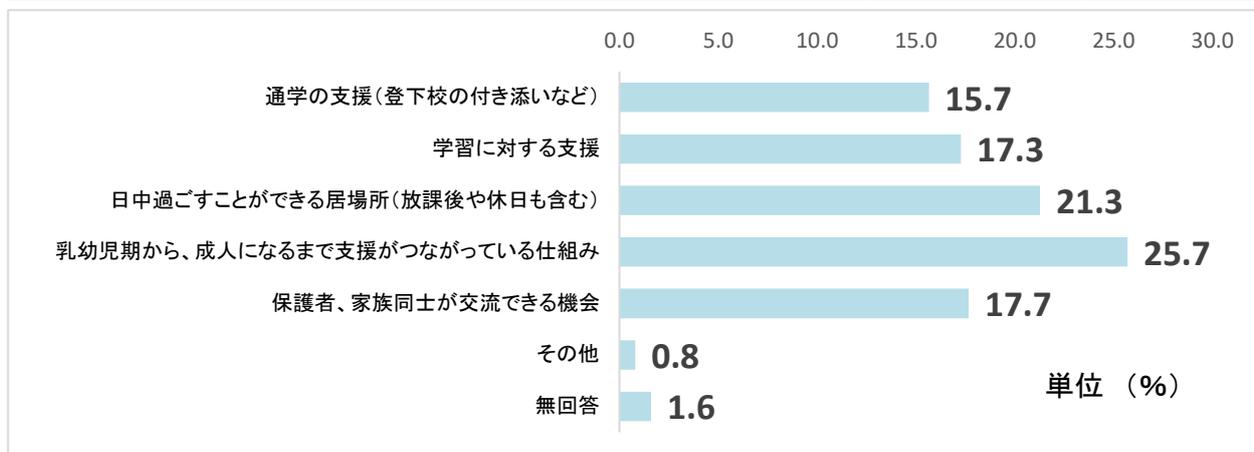
60代 男性『罰則を備えた法整備と、道徳教育』

60代 男性『障害のあるなしにかかわらず、差別や嫌がらせは、どこにでもある。なくすことは難しい。ましてチラシで減るなら、もうとっくになくなっている。助けてあげる人を増やす。暴力は犯罪なので、別の問題』

70代 男性『一般的には、差別や嫌がらせはいけない、と子どもから大人までわかっていると思う。何をすれば無くなるかわかりません』

40代 女性『教育、家庭、こども園、小学校、中学校から身近に感じられ、当たり前色々な人がいる環境』

Q	18 障がいのある子どもの生活について、どのような支援が必要だと思いますか。(〇は3つまで)	件数	割合 (%)
1	通学の支援(登下校の付き添いなど)	39	15.7
2	学習に対する支援	43	17.3
3	日中過ごすことができる居場所(放課後や休日も含む)	53	21.3
4	乳幼児期から、成人になるまで支援がつながっている仕組み	64	25.7
5	保護者、家族同士が交流できる機会	44	17.7
6	その他	2	0.8
	無回答	4	1.6
	合計	249	100.0

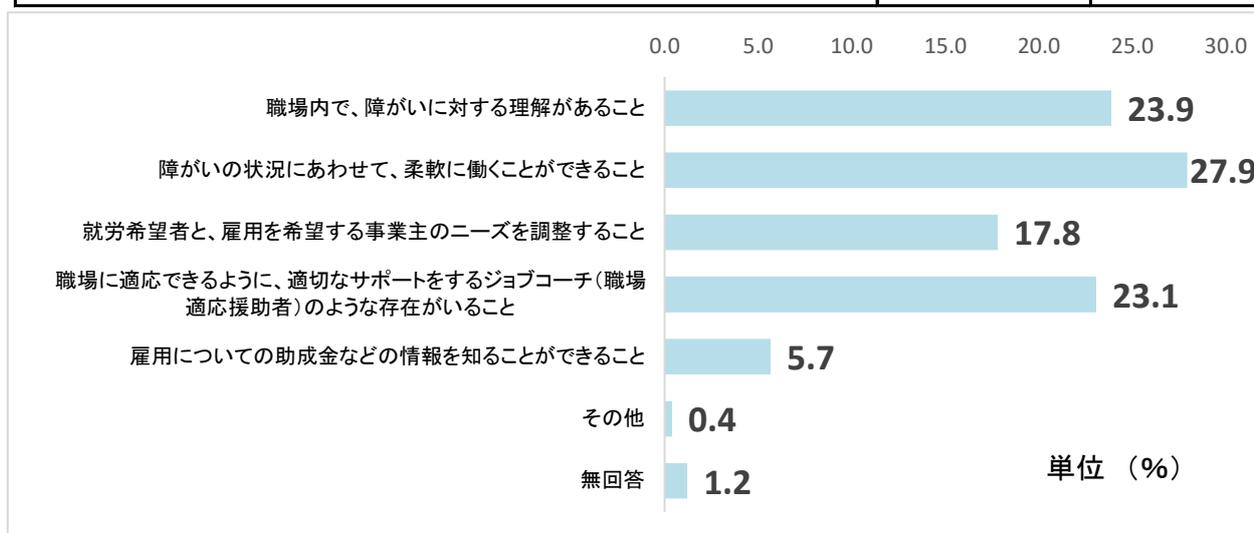


問18 その他

40代 女性『ご家族、子どもにお話を聞いていないので、わからない』

60代 男性『当事者へのヒアリングの充実』

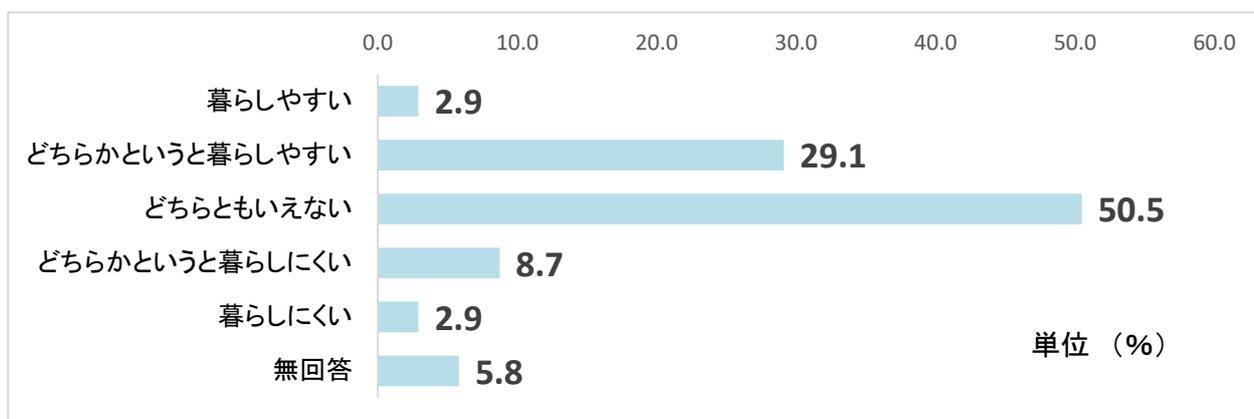
Q	19 障がいのある方の就労について、どのような支援が必要だと思いますか。（〇は3つまで）	件数	割合（%）
1	職場内で、障がいに対する理解があること	59	23.9
2	障がいの状況にあわせて、柔軟に働くことができること	69	27.9
3	就労希望者と、雇用を希望する事業主のニーズを調整すること	44	17.8
4	職場に適応できるように、適切なサポートをするジョブコーチ（職場適応援助者）のような存在がいること	57	23.1
5	雇用についての助成金などの情報を知ることができること	14	5.7
6	その他	1	0.4
	無回答	3	1.2
	合計	247	100.0



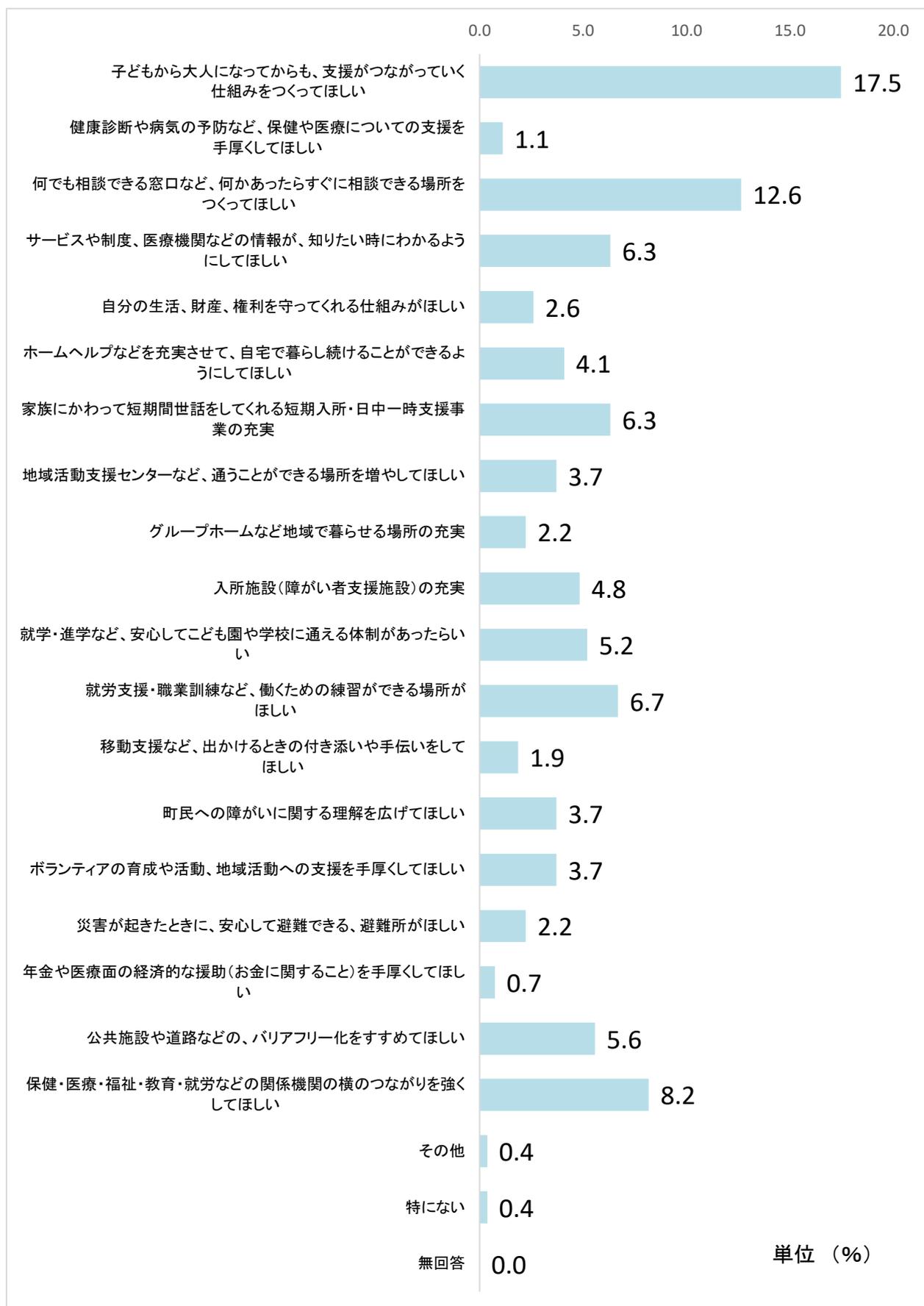
問19 その他

60代 男性『行政の積極的なバックアップと、プロによる指導』

Q 20 あなたは、清水町が障がいのある方にとって暮らしやすいまちだと思いますか。（〇はひとつだけ）		件数	割合（%）
1	暮らしやすい	3	2.9
2	どちらかという暮らしやすい	30	29.1
3	どちらともいえない	52	50.5
4	どちらかという暮らしにくい	9	8.7
5	暮らしにくい	3	2.9
	無回答	6	5.8
合計		103	100.0



	21 あなたは、障がいのある方に対する支援として、清水町に Q 「力をいれてほしい」と思うことは何ですか。 (○は3つまで)	件数	割合 (%)
1	子どもから大人になってからも、支援がつながっていく 仕組みをつくってほしい	47	17.5
2	健康診断や病気の予防など、保健や医療についての支援を 手厚くしてほしい	3	1.1
3	何でも相談できる窓口など、何かあったらすぐに相談できる場 所をつくってほしい	34	12.6
4	サービスや制度、医療機関などの情報が、知りたい時にわかる ようにしてほしい	17	6.3
5	自分の生活、財産、権利を守ってくれる仕組みがほしい	7	2.6
6	ホームヘルプなどを充実させて、自宅で暮らし続けることができ るようにしてほしい	11	4.1
7	家族にかわって短期間世話をしてくれる短期入所・日中一時支 援事業の充実	17	6.3
8	地域活動支援センターなど、通うことができる場所を増やして ほしい	10	3.7
9	グループホームなど地域で暮らせる場所の充実	6	2.2
10	入所施設（障がい者支援施設）の充実	13	4.8
11	就学・進学など、安心してこども園や学校に通える体制があっ たらいい	14	5.2
12	就労支援・職業訓練など、働くための練習ができる場所が ほしい	18	6.7
13	移動支援など、出かけるときの付き添いや手伝いをして ほしい	5	1.9
14	町民への障がいに関する理解を広げてほしい	10	3.7
15	ボランティアの育成や活動、地域活動への支援を手厚くしてほ しい	10	3.7
16	災害が起きたときに、安心して避難できる、避難所がほしい	6	2.2
17	年金や医療面の経済的な援助（お金に関すること）を手厚くし てほしい	2	0.7
18	公共施設や道路などの、バリアフリー化をすすめてほしい	15	5.6
19	保健・医療・福祉・教育・就労などの関係機関の横のつながり を強くしてほしい	22	8.2
20	その他	1	0.4
21	特にない	1	0.4
	無回答	0	0.0
	合計	269	100.0



問 2 1 その他

60代 男性『わからん者と知らん者のタッグではなく、プロフェッショナルが集まって、指導のもと実行を伴った組織力のアップ』

22 障がい福祉について、あなたや家族が思っていることを自由にお書きください。

Q
(自由回答)

60代 男性『障がい者の前に、まず健常者がまともに暮らせる町づくりをお願いしたい』

50代 男性『お互いが理解しあえること。家族負担に限度があること。限度を超えると、誰かが支える』

70代 男性『健康な人は、自分がいつまでも今の状態のまま生活していける。自分は障がいとは関係がないという錯覚を持っています。

「自分もいつでも障害者になって人の助けを必要とする立場にあるのだ」ということを理解してもらおう、みんなが障害者にやさしい町であってほしいと思います』

70代 男性『町民一人ひとりが障がい福祉について考える機会を多くしてほしい（イベント等での啓発）

町内会や小さなグループでも、障がい福祉について話す時間があってもよい（保健福祉課職員による話でも）』

60代 男性『どのような計画を作成するにしても、まずは実態を正確に把握することが重要と考える』

50代 男性『自分の周りに、そういう人がいないと無関心になりがちなので、町民にチラシや広報などで、広く関心を持ってもらえるようにすればいいと思います』

60代 男性『障がいがあっても、1人の人間として生活できること。それを支える家族の負担を少しでも減らすこと』

70代 女性『障がい者は年齢を重ねれば、ほとんどの人がなる。特別な人ばかりではない。障がい福祉も、身近な問題と思いたい』

40代 女性『身近にいないので、あまりわからない。「障がい福祉とは？」を知りたい。ここ数年で「障がい手当、制度を受ける方が増えているのでは？」と聞いたばかりだったので、関心がある。

アンケートを答えるにあたっては、どの年代の障がいのある方を想像して答えてよいか、わからなかった』

70代 男性『障害福祉というのは広範囲にわたるもので、人口減少に向かうなかで市町村単独の計画を維持継続することが、将来的に（金額及び担い手）できなくなるのではと思います。

又、障害に対するサービスの担い手や施設は、身近な場所が要求される難しい問題だと思います』

60代 男性『清水町には清水旭山学園があり、障害者やその家族は、安心して生活をまかせられる良い町だと思います』

50代 女性『現在、にんにくの種割り作業に3～4日、帯広市の「あいとう」さんという就労支援事業所の方たちに来ていただいています。

とてもまじめにコツコツと作業していただいて、清水町でも農福連携ができればとっても良いのになあ、と感じています』

70代 男性『精神障害者との同居の難しさと、同居する家族負担が大きいことの悩み』

70代 男性『家族がすべてを抱えるには限度があると思います』

70代 男性『「障がい」については、その種類や特性、いつ「障がい」になったのか等、様々であり、また障がい者自身の情緒や育った環境もそれぞれである為、障がい福祉としての対応は多種多様であるかと考えます。

また時間とともに、その内容も変化していくものだと思います。常に「障がい」についての対話を町民同士で続けていくことで、理解を深めていくことが肝要だと思います』

50代 男性『今回のアンケートは、知的障がいのことだけを言っている気がする』

50代 男性『偏見をなくしたい。 そのためには、障がい者ともっと交流を図りたいと思っています』

60代 男性『家族（障がい者をかかえている）が一番大変だと思うので、町が主体となって周りの方々の支援や、理解をしてもらえる環境になれば良いと思う』

60代 男性『ひと言「障がい」といっても色々あると思います。

しかし、家族が大変な思いをしていることは、確かなので、その負担を少しでも減らすことができれば良いだろうと思います。また就労可能な人は、その手助けも必要だと思います』

60代 男性『色々書きましたが、否定的意見ではありません。職員の奮起を期待します。

平均点では駄目。特色のあるやさしい計画になることを願い、具体的施策に進むことが、この計画にこのアンケートに課せられた責務と思います。

議会へのアプローチも議員各位に丁寧に訴えるものとし、計画が上手く作用し、障がい者の希望が叶えられるよう頑張ってください』

70代 男性『障がい者が、地域社会で自立して生活できるようにするために、ボランティア活動、地域の支援、公助としての行政の役割が重要と考えます』

60代 男性『ユニバーサルデザインの考え方を普及させてほしい。

それにより、障がい者の自立促進につなげることができれば「守る福祉」から「自立を促す福祉」へ転換することが可能となる』

60代 男性『自分は元気で不自由な身体でないから、どうしても他人事のようになるけれど、障がいのある本人や家族にとっては大変つらいことも多いと思います。

家族同士の交流や地域との交流、勉強会を普段より実行できればと思います』